

Press Release

報道関係者各位



107-6011 東京都港区赤坂 1-12-32-11F

TEL : 03-5545-3303 FAX : 03-5545-3305

お問合せ: スポーツライフ調査担当(武長・藤原・工藤)
data@ssf.or.jp

4～9歳の半数以上(52.7%)が、 「週7回以上」運動・スポーツを実施

笹川スポーツ財団(所在地:東京都港区赤坂 理事長:小野 清子 以下:SSF)では、2年に1度実施する全国調査『4～9歳のスポーツライフに関する調査』『10代のスポーツライフに関する調査』を通じて、子どもたちの運動・スポーツの現状を明らかにしてまいりました。このたび、最新の調査結果がまとまりましたので主な調査結果について、ご報告いたします。(なお、全ての調査結果は、「子どものスポーツライフ・データ2013」「青少年のスポーツライフ・データ2013」として刊行しております。)

今回の調査では、「過去1年間にまったく運動・スポーツを行わなかった」4～9歳は1.8%(前回:4.8%)、10代は13.0%(前回:14.5%)、反対に「週7回以上」行った4～9歳は52.7%(前回:35.5%)、10代は38.6%(前回:33.2%)との結果となり、両世代とも増加傾向が認められました。とくに、4～9歳の子どもの半数が定期的に運動・スポーツに取り組んでいることがわかりました。また、幼児から小学4年生までの運動・スポーツ実施頻度の調査結果を男女別で見ると、これまで指摘されてきた「女子の運動・スポーツ離れ」の傾向は見られず、むしろ女子のほうが活発である状況がうかがえました。

本調査では、「運動・スポーツの実施状況」以外に、「スポーツ指導者」「スポーツ観戦」「好きなスポーツ選手」などのテーマごとに「子ども・青少年のスポーツの今」を明らかにしています。ご関心の高いテーマに関する調査結果につきまして、お問い合わせいただければ幸いです。

主なポイント

【10代の調査結果】

- 1) 週7回以上の運動・スポーツ実施者が過去最高(38.6%)
- 2) 過去1年間に「よく行った」運動・スポーツ種目、男子の1位「サッカー」(45.4%)と2位「野球」(25.8%)の差が広がる(今回:19.6ポイント 2009年:3.9ポイント)
- 3) 過去1年間に体育館・スタジアム等で直接スポーツの試合を観戦した者は36.9%で調査開始以来、最も低い結果に

【4～9歳の調査結果】

- 1) 4～9歳の約半数(52.7%)が、週7回以上運動・スポーツを実施
- 2) 過去1年間に「よく行った」運動・スポーツ種目では、男子の上位10種目から「野球」がランク外に
- 3) 過去1年間に直接観戦したスポーツは、男女ともに「プロ野球(NPB)」が最も高い結果に

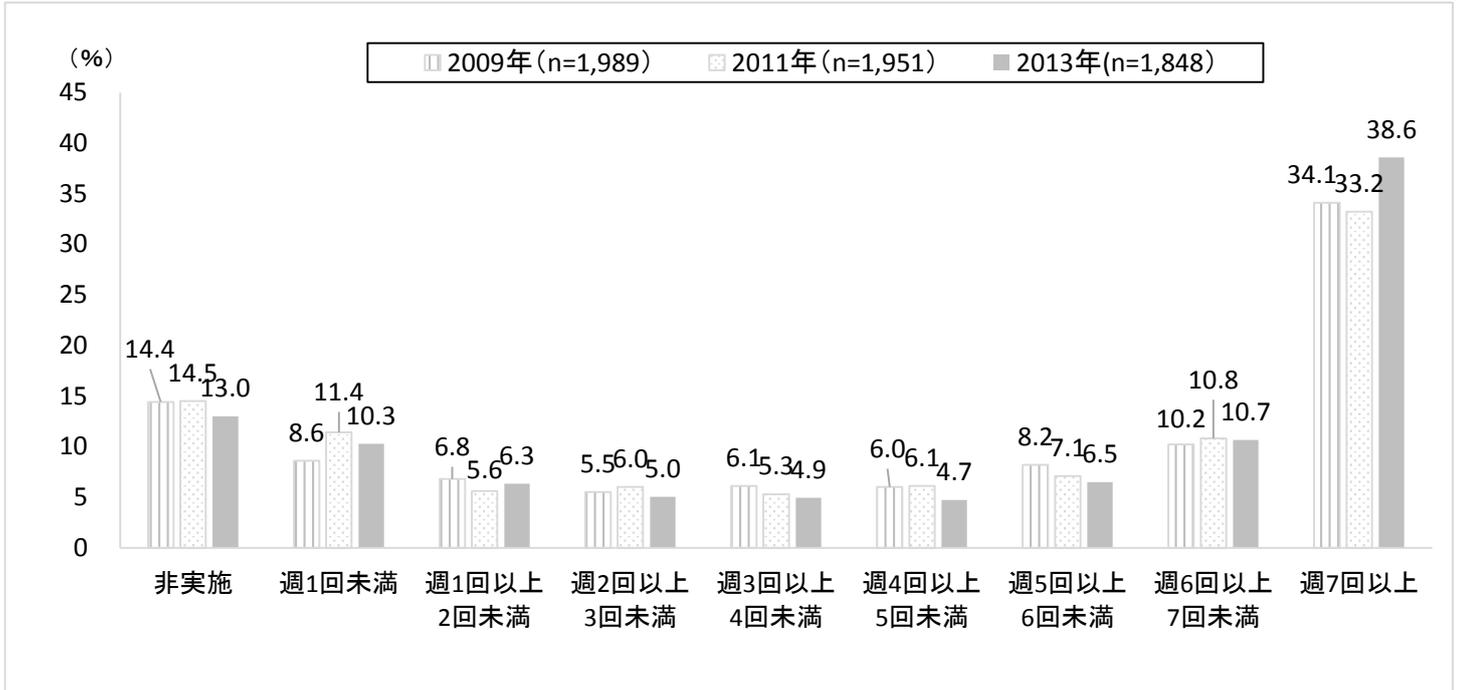
【10代の調査結果の詳細】

1) 週7回以上の運動・スポーツ実施者が過去最高(38.6%)

わが国の青少年の運動・スポーツ実施率は非実施が13.0%、週7回以上が38.6%であった(p45:図1-2)*。週7回以上の実施者は過去最高に、非実施者は11%~15%程度で推移している。

*ページおよび図表番号はそれぞれの報告書における番号

【図1-2】運動・スポーツ実施頻度の年次推移(頻度分類別)



資料: 笹川スポーツ財団「10代のスポーツライフに関する調査」2013

2) 過去1年間に「よく行った」運動・スポーツ種目、

男子の1位「サッカー」(45.4%)と2位「野球」(25.8%)の差が広がる

過去1年間に「よく行った」運動・スポーツ種目をみると、男子の1位は「サッカー」で45.4%、2位は「野球」で25.8%、3位は「バスケットボール」で24.9%であった。2009年は3.9ポイントの差であった「サッカー」と「野球」であるが、2013年は19.6ポイントに広がっている(p52:表1-7)。

3) 過去1年間に体育館・スタジアム等で直接スポーツの試合を観戦した者は、調査開始以来、最も低い結果に

過去1年間に体育館・スタジアム等へ足を運んで直接スポーツの試合を観戦した者は、全体の36.9%であり、わが国10代の直接スポーツ観戦人口は440万人と推計された。過去の調査と比較すると、調査開始以来、最も低い結果となった(p77:図6-1)。

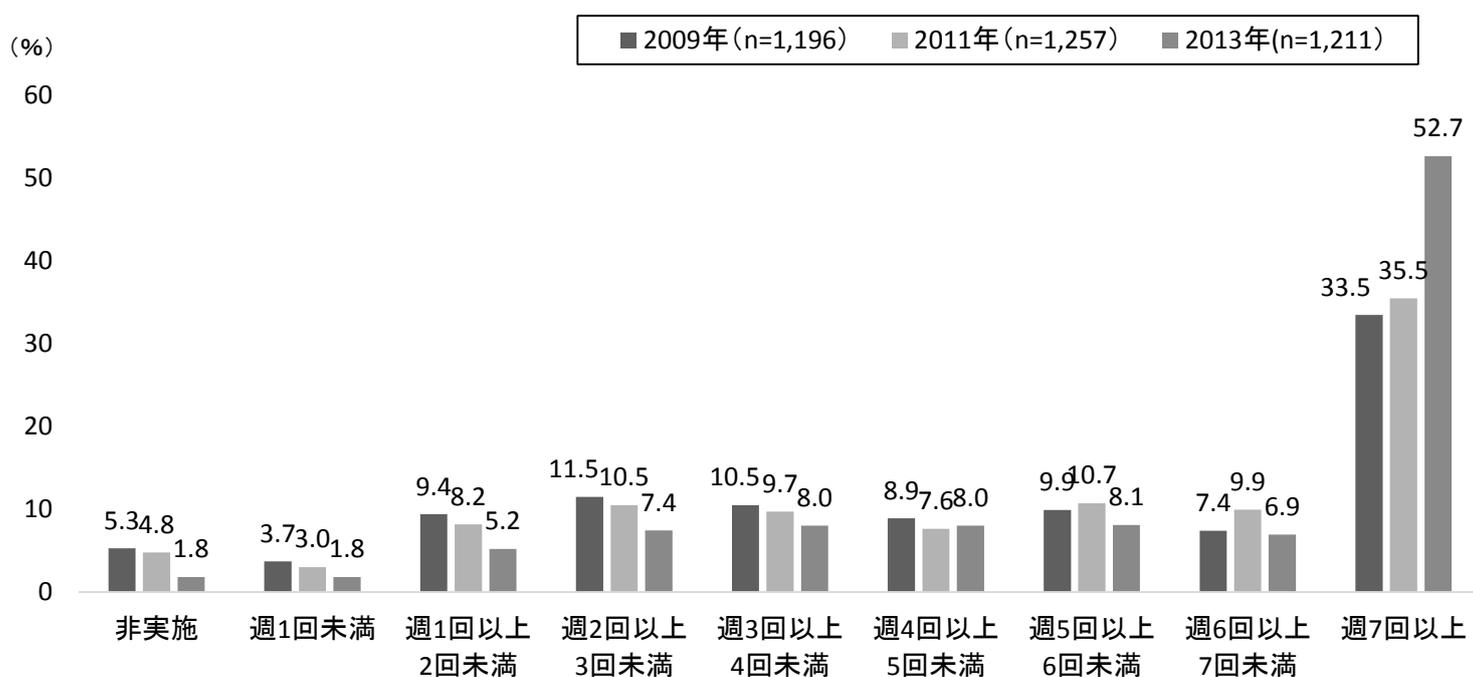
(紙面の都合上、2)および3)の図表は割愛しています)

【4～9 歳の調査結果の詳細】

1) 4～9 歳の約半数(52.7%)が、週 7 回以上運動・スポーツを実施

4～9 歳の運動・スポーツ実施状況をみると、過去 1 年間にまったく運動・スポーツを行わなかった者は 1.8%であった(p41:図 1-2)。「週 7 回以上」は 52.7%であり、4～9 歳の子どもの半数が定期的にからだを動かしていることがわかった。

【図 1-2】運動・スポーツ実施頻度の年次推移(頻度分類別)



*2009年、2011年の調査は最大3種目まで、2013年の調査は最大5種目までの回答を分析対象とした。

資料: 笹川スポーツ財団「4～9歳のスポーツライフに関する調査」2013

2) 過去 1 年間に「よく行った」運動・スポーツ種目、男子の 1 位「サッカー」 「野球」は上位 10 種目から外れる

過去 1 年間に「よく行った」運動・スポーツ種目を性別にみると、男子では、1 位「サッカー」48.5%、2 位「おにごっこ」48.4%、3 位「水泳(スイミング)」41.0%であった。女子では、1 位「おにごっこ」51.5%、2 位「自転車あそび」37.3%、3 位「ぶらんこ」36.4%であった(p47:表 1-6)。男子では、2011 年調査では 6 位であった「野球」が今回の調査では選外となった。

3) 過去 1 年間に直接観戦したスポーツは、男女ともに「プロ野球(NPB)」が 最も高い結果に

過去 1 年間に体育館やスタジアム等で直接観戦したスポーツを聞いたところ、男女ともに「プロ野球(NPB)」(男子 16.8%、女子 10.0%)が最も高い観戦率となった(p68:表 5-1)。

(紙面の都合上、2)および3)の図表は割愛しています)

調査の概要

1 調査目的 :

本調査はわが国の子どもや青少年(4歳～19歳)の運動・スポーツ活動の実態を総合的に把握し、スポーツ・フォー・エブリワンの推進に役立つ基礎資料とすることを目的としている。

	4～9歳	10代(10～19歳)
2 調査内容	運動・スポーツ実施状況(実施種目、実施頻度、実施時間、運動強度 他)／運動・スポーツ施設／習いごと／運動・スポーツへの態度(運動・スポーツをしない理由、好き嫌い 他)／好きなスポーツ選手／家族の運動・スポーツ実施と子どもの運動・スポーツ実施 他	運動・スポーツ実施状況(実施種目、実施頻度、実施時間、運動強度 他)／運動・スポーツ施設／スポーツクラブ・運動部／スポーツ観戦／スポーツボランティア／習いごと／運動・スポーツへの態度(運動・スポーツをした理由、好き嫌い 他)／スポーツ傷害 他
3 調査対象		
母集団	全国の市町村に在住する4～9歳	全国の市町村に在住する10歳代
標本数	1,800人	3,000人
地点数	市部181地点 郡部19地点 計200地点	
抽出方法	層化二段無作為抽出法	
4 調査時期	2013年6月29日～7月31日	
5 調査方法	訪問留置法による質問紙調査	
6 回収結果	有効回収数 1,211(67.3%)	有効回収数 1,848(61.6%)

7 SSF スポーツライフ調査委員会 :

委員長 海老原 修 横浜国立大学 教育人間科学部 教授

委員 小林 優子 東京学芸大学大学院 連合学校教育学研究科 博士課程
 澤井 和彦 桜美林大学 健康福祉学群 准教授
 高峰 修 明治大学 政治経済学部 准教授
 仲澤 眞 筑波大学 体育系 准教授
 野井 真吾 日本体育大学 体育学部 教授
 松尾 哲矢 立教大学 コミュニティ福祉学部 教授
 渡邊 一利 笹川スポーツ財団 専務理事

※本調査事業は、ボートレース公益資金による日本財団の助成金を受けて実施したものです。